みやこんじょ

No.41
発行日 2015年10月1日
発　行 独立行政法人国立病院機構
都城医療センター
宮崎県都城市祝吉町5033番地1
TEL 0986-23-4111

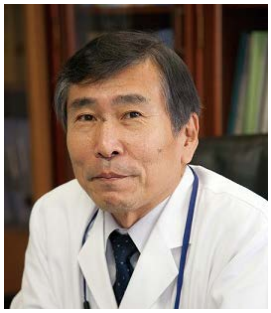
基本理念 高度で良質な医療を提供し、病む人々が安心し、信頼できる病院をめざします

衣替え

院長　井　口　厚　司

例年、これから暑くなる6月1日と、次第に涼しさを増す10月1日に装いを替える習わしがありました。古くは平安時代から更衣と呼ばれていたもので中国から伝わった風習とされているようです。近年は国内が亜熱帯化してきて、これまでの季節感とは若干異なってきている感がありますが、学校や制服を使っている職場では衣替えはこの時期に昔ながらに行われているのでしょうか。

さて、衣替えではありませんが、世の中10月から変わるものがいろいろあるようです。火災保険料の大幅な値上げをはじめモノの値段が上がるのは別にこの10月に限ったことではありませんが、新たな制度として国民ひとり一人にマイナンバー（社会保障・税番号）が配られるのも10月からです。医療界においては10月から変わる新制度として医療事故調査制度の施行があります。この制度の正確な内容や具体的なところはいまだ医療界でも十分理解されているとは言い難いところがありますが、この制度は一口で言うと病院内で起こった「予期せぬ死亡事故」を第三者の支援のもとに院内調査を行って結果を遺族と第三者機関である支援センターに報告する制度です。遺族が納得しなければ第三者機関が独自に調査することもあり得ます。「予期せぬ」の定義や解釈、患者・家族への説明書への明記などについて皆さんも十分理解しておく必要があります。それ以外でもこの10月の衣替えの時期に医療をとりまく環境は少しずつ変化しつつあります。気付いた時にはこれまでと大きく医療制度が変わっていた、ということがないように常に情報に目を向け注意を払っておかねばなりませんし、情報の先取りによって事前の備えを怠らないようにしておくことが大切です。



変わることも大事ですが、続けることも大切です。昨年、当院で初めて病院機能評価を受審したのが丁度昨年の10月でした。あれから早いものでもう1年が経過しました。機能評価受審のために各部署が一丸となって医療の質改善に取り組んだ記憶はまだ薄れてはいないと思いますが、少しずつ受審の頃の緊張感が薄れてきているのではないかと思えるところが目につきます。医療の質改善への取り組みは継続が大切であるとともにPDCAサイクルによりさらなる高みを目指しなお一層の改善努力もまた重要です。そのために当院では近く継続的な医療の質改善に院内全体で取り組むために、総合品質管理（TQM）推進部を立ち上げようと考えています。強力なトップマネジメントのリーダーシップのもとに、組織をあげて「患者本位の医療の質」と「質の効率」を確保し改善するシステムの構築を目指すとともに、今後の病院機能評価の継続受審にも対応していくつもりです。職員の皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

「秋の日はつるべ落とし」と言われ、井戸の釣瓶が落ちるように秋の日は一気に沈んでしまいます。まだまだ明るいからと油断していると、いつの間にかあたりは暗くなっていたという経験があるかと思いますが、我々が提供している医療も同様で患者さんやご家族から信頼が得られていると思い込んでいるうちに、「つるべ落とし」のようにあっという間に信頼を失うこともあります。常日頃から医療の質を意識して患者さんに寄り添う医療、良質な医療を提供できるよう心がけたいものです。

第6回 市民フォーラム
場所：ウエルネス交流プラザ「ムジカホール」
平成27年10月24日（土）
参加費無料

健康フェスタ　平成27年11月14日（土）

参加費無料

消化器病センターの紹介

都城医療センターには今年５月より新たに消化器病センターが開設されました。当センターでは肝臓疾患・消化管疾患を中心に外科の先生と共同で診療にあたっています。

肝癌診療では肝内腫瘤全般に対し、超音波造影剤 Sonazoid を用いることで治療前診断から治療後の効果判定までがリアルタイムの画像で行えるようになりました。何といってもこの検査の最大のメリットは腎機能が悪いため造影剤を用いた CT・MRI 検査が行えず診断に苦慮しているような症例に対しても安全に施行・診断ができることです。肝癌の治療法はこれまでは外科で開腹手術、腹腔鏡下手術、開腹下ラジオ波焼灼術等を、放射線科で血管造影による肝動注・肝動脈塞栓術が行われてきましたが、今後はこれらに加えて経皮的ラジオ波焼灼術や肝表面に存在し経皮的ラジオ波焼灼術が困難な症例に対しては腹腔鏡アシスト下ラジオ波焼灼術も行えるようになり、さらに前述の造影エコーと組み合わせることにより通常の B-mode エコーでは見えない腫瘍に対しても治療が可能になりました。治療機器においては一般的に普及している従来のモノポーラのラジオ波器ではペースメーカー埋め込み例や金属が体内に入っている場合等では使用できませんでしたが、当センターではバイポーラのラジオ波器（セロンパワー）も導入しており全ての患者さんに対応できます。

また、肝硬変患者さん等に見られます胃・食道静脈瘤に対しても硬化療法を外科の先生と共同で再開いたしましたが、どうしても内視鏡で治療できない症例に対しては外科的治療も考慮して頂いています。

肝炎の治療につきましてはインターフェロンを用いない新薬の開発が目覚ましく、待望のハーボニーが発売され使用を開始いたしましたが、３ヶ月の治療期間で難治と言われてきた１型でもほぼ 100%、２型で 96%前後のウイルス消失率を示しており当センターでは 80 歳を超える患者さんであっても適応があれば治療を行っています。

一方、消化管疾患につきましては上部消化管検査では狭帯域光観察（NBI：Narrow Band Imaging）を用いた胃癌・食道癌の早期発見、下部内視鏡検査では拡大内視鏡を用いた大腸腫瘍の診断も積極的に行い、内視鏡で治療可能なものは EMR（内視鏡的粘膜切除術）や ESD（内視鏡的粘膜下層剥離術）を、内視鏡的に治療不可能なものは外科の先生に依頼して腹腔鏡下や開腹下に手術を行って頂いています。

栄養療法につきましても NST（Nutrition support team）のチェアマンに任命頂き、全病棟・全科の患者さんを対象にチームで栄養スクリーニングを行い介入が必要な患者さんに対しては週１回、午後１時から夕方までみっちりカンファレンスと回診を行っていますので、栄養療法関連でお困りの方がいらっしゃいましたらぜひご相談下さい。

以上のように当センターは内科・外科が密に連携しながら検査・治療にあたっていることが特徴であり且つメリットであると思っています。今後もより良い医療を提供すべく、地域の中核病院として他基幹病院やご開業の先生方のご協力を得ながら努力し、センターの拡充を図って行きたい思っていますのでご指導、ご鞭撻のほど何卒宜しくお願い申し上げます。

（消化器病センター長　駒田 直人）

９月より緩和ケア専従看護師になりました！

看護部　がん性疼痛看護認定看護師　児玉みゆき

これまでがん性疼痛看護認定看護師として活動を行ってきましたが、この度、緩和ケア専従看護師となり、より一層、がん患者の全人的苦痛の緩和のために専門的知識、技術を活かしてタイムリーに関われるようになりました。身体面はもちろんですが、告知や再発、麻薬使用時の不安など精神面へも関わらせていただき、急性期だからできる早期からの緩和ケアを提供できるよう活動していきます。まずはお電話だけでも！連絡お待ちしています。

外科の紹介

当外科では、国の指定する５大癌のうち、肺がん以外の胃がん・大腸がん・肝臓がん･乳がんを担当していますし、さらに、高度な治療を要する食道がん･胆管がん・膵がんなども担当しています。

当科の特徴として、第一に、根治切除が困難と思われる高度進行した癌でも、放射線療法･化学療法･免疫療法などを用いて集学的な治療を行うことにより、根治切除が可能な状況へ導き完全切除を行い、救命につながる手術を実施していることと自負しております。

具体的には、大動脈や気管などへの浸潤をきたしているために切除不能な Stage IVa の高度進行食道がん症例でも、集学的な手術前治療にて根治切除へ導き、良い QOL を得ながら救命できている症例も多く存在しています。また、がん性腹膜炎を呈している切除不能な Stage IV の高度進行胃がん症例は全国的には余命が１年を超えることも、救命することもほぼ不可能でありますが、当院では化学･免疫療法にてがん性腹膜炎を克服して根治切除ができ、救命できている症例も数名存在しています。さらに骨盤内で周囲への浸潤が高度で根治切除が困難な高度進行直腸がんや、肝臓転移をきたしている大腸・直腸がんに対して、積極的な集学的治療を実施して、根治切除へ導くことが可能となっております。また、肝臓がんに対しては、RFA や TACE などの集学的治療を組み合わせて根治性の高い切除を目指しております。胆管がんや膵がんでは切除可能で手術を実施できても、全国的には胆管炎や膵炎など術後の合併症が多かったり、経口摂取状況が不良で低栄養となることが比較的多く、患者様の満足度が低いのがこの疾患の特徴でありますが、独自の術式の改良にて合併症が少なく経口摂取にも満足度のある手術を行っております。

次に低侵襲を目指した治療として、鏡視下手術ですが、大腸がんの腹腔鏡下手術は 12 年前から積極的に実施しており、胃がんの腹腔鏡下手術も６年前から開始して、術後の QOL の改善と患者様の満足度に貢献しております。さらに､早期食道がん･胃がん･大腸･直腸がんに対しては､粘膜切除（EMR）や粘膜剥離（ESD）を積極的に実施しており、低侵襲化に努めております。

乳がん治療では、当方が赴任してきてからこの 11 年間は低侵襲手術を目指しており、術前の正確な診断をもとに、根治性が高く合併症の少ない治療を実施しております。早期乳がんでは手術中にセンチネルリンパ節転移のチェックにて腋窩リンパ節の省略を可能にし、乳房温存の際に切除断端の術中病理診断を迅速にかつ正確に行っており、局所再発をほぼゼロにできております。また、進行乳がんでも正確な腋窩廓清にて腕のリンパ浮腫を完全に予防できており、この 11 年間に術後の患肢のリンパ浮腫は全くおられません。術後もガイドラインに沿って５年間の補助療法や 10 年間の定期フォローなど確実に実施し、その後も希望があれば定期健診も実施しておりますので、安心して受診することができます。

胆石・胆嚢炎に対する治療も、急性胆嚢炎であればガイドラインに沿って準緊急に腹腔鏡下胆嚢摘除手術を実施し入院期間を減らし社会復帰を早めることに努め、また、総胆管結石や閉塞性黄疸に対する ERCP・ERBD・胆管ステントなどの内視鏡的な診断・治療も日々行っております。

さらに、鼠径・大腿・臍ヘルニアや腹壁瘢痕ヘルニアなども年間 100 例を超える治療も実施しております。また小児外科に関しましては、鼠径ヘルニア手術を毎年 40 例ほど実施しており、臍ヘルニア根治術、小児虫垂炎に対する小さなポートを使用し傷を小さくする腹腔鏡下虫垂切除術、腸重積に対する手術など比較的簡単な手術を実施しており、小児悪性疾患や大きな手術を要する疾患では、希望に応じて、九州管内どこでも紹介が可能です。

以上ですが、これら多岐にわたる領域をわずか４名の外科のメンバーで担当し、日々奮闘しております。

（外科部長　後藤又朗）

第6回 市民フォーラム

場所：ウエルネス交流プラザ「ムジカホール」

平成27年10月24日（土）

参加費無料

健康フェスタ　平成27年11月14日（土）

参加費無料

新生児蘇生講習会

2015 年 6 月 13 日に当院主催で第 1 回新生児蘇生講習会を開催しました。

この講習会は日本周産期・新生児医学会認定のものであり、主な目的は、子宮内から子宮外への呼吸循環移行ができない新生児仮死に対する心肺蘇生法の学習です。講習会は大まかに 2 種類のコースがあり、A「専門」コースは、二次･三次周産期医療機関のスタッフ、医師、専門性の高い看護師･助産師など、B「一次」コースは、一次周産期医療機関の医療スタッフ、研修医、学生、救命救急士などを対象としています。

今回は A コースを開催しました。参加者は、都城市内の産婦人科医院･病院、および当院から看護師・助産師 17 名でした。

講習会では、まずプレテストを行い、私たちインストラクターは、各参加者の学習状況の把握、重点的に学習すべきポイントの確認などを行います。この時点でほとんどの参加者が 8 割以上の高得点で心強いスタートとなりました。今回の参加者の皆さんは各施設で経験豊富な方が多かったこと、また円滑な研修のため予習をお願いしていましたが、それぞれ十分な予習をしていただいた成果だと思います。

その後、小児科　横山よりスライドを用いて、出生前後に起こりうる病態とその対応について解説を行いました。従来の新生児蘇生法は経験的に習得するのが一般的でしたが、この講習会では蘇生法をアルゴリズムに従って標準化していますので、それに合わせて講習を進めていきます。

次にシミュレータを用いた実技講習です。参加者は、インストラクターの産婦人科　卜部医師、熊本大学小児科　岩井医師の 2 グループに分かれ、前半はマスク＆バッグや心臓マッサージなどの手技一つ一つを習得し、後半はシナリオセッションに移ります。

シナリオセッションは、臨床で起こりうる状況・経過に対し、各参加者自身が評価法、対処法を考え、施行していきます。普通分娩（赤ちゃんが入院しなくてよい状況）から気管挿管や心臓マッサージまで行う重篤な状況まで、様々なシナリオがインストラクターから告げられます。状況に応じた対応が求められるだけでなく、アルゴリズムは 30 秒毎に評価を行うため、時間との戦いでもあります。最初は緊張される参加者も見受けられましたが、最終的には、どの参加者もテキパキとこなされていました。

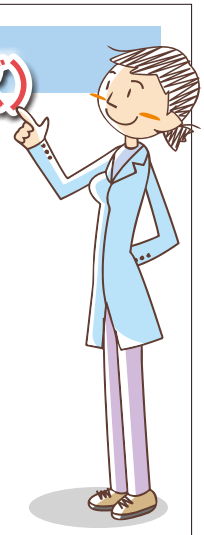
講習会の最後はポストテストを行い、このテストで講習会の合否が決まります。テスト自体は学会本部で採点され、参加者それぞれへ結果が送られるため、主催側の私たちは結果がわかりませんが、講習会の様子を見る限りおそらくほとんどの参加者が合格されたのではないかと思います。

この講習会の最大の目標は、「すべての分娩に新生児蘇生法を習得した医療スタッフが新生児の担当者として立ち会う」体制を確立することです。現代の産科医療の進歩をもってしても予測できないハイリスク分娩は一定数あり、かつ、そういった分娩では母児ともに緊急性が高い状況であることが多く、出生して数分から十数分でどのような治療をなされたかが非常に重要となります。

現在、当院では第 2 回を計画中ですが、各所でも講習会が開催されていますので、分娩に関わる医療スタッフは是非参加を検討されてみてください。

（小児科医長　横山 晃子）

医療体験ツアー（メディカルキッズ）



昨年から始めた、医療体験ツアー（メディカルキッズ）の季節がやってきました。

夏休みを利用して、都城市に根付く医療人を育成するため、地域のみならず、全国へ発信し、小中学生対象に医療体験ツアーを行いました。

応募者多数のため、厳選なる抽選の結果、小学生 17 名、中学生 22 名の参加者となりました。白衣に着替え、自分の名札をつけて写真に納まる様子はまるで医療人でした。でもやっぱり緊張！その緊張をとって笑いを提供してくれたのが、地域医療連携部　副部長でした。1 週間睡眠時間をけずり練習したマジックをご披露。その笑顔のまま医療体験ツアーが始まりました。院長先生のお話、ビデオ学習後は、体を動かす体験です。

命を救う心肺蘇生体験（BLS）、血圧測定や医療モデルを使った採血に挑戦、顕微鏡学習、ECG の不思議体験、切開・縫合体験、内視鏡手術体験、リンパマッサージ・フットケア体験、医療機器を使った点滴、車いす体験そして今年度から、シミュレータを活用した心音・呼吸音聴取体験など、多くの体験を、その専門スタッフから学ぶことができました。

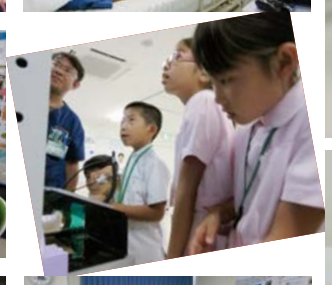
実際の手術に使うメスや針を使い、切開、縫合を興味深く、緊張した表情で取り組んだり、小学生の内視鏡手術体験では、実際の縫合を体験後、外科の医師と一緒に内視鏡下で隠れたキャンディーを探してゲットするゲームを行い、嬉しそうにしていました。採血や血圧測定も自分で実践して、逆血にびっくりしたり、本物の血と思い心配そうにしている子もいました。シミュレータの心音や呼吸音聴取では、呼吸音が聞こえたり、橈骨動脈が触れたり、シミュレータがしゃべったりするのに最初はびっくりしていましたが、そのうち楽しそうにいっぱい聞いて触っていました。

BLS では、インストラクターの指導のもと、胸骨圧迫やお友達を呼ぶ応援体制、体育館にある AED を持ってくる役割をとれるようになりました。恥ずかしい年頃の中学生が大きな声を出して、一次救命処置ができたことに感動しました。

未来の医療従事者達の、輝く瞳と興味関心をよせる表情がとても力強く感じた 1 日でした。

忙しい中で、丁寧で、優しい指導をしてくださったスタッフの皆さんに感謝致します。

（研修教育部　副部長　休萬 康代）



第6回 市民フォーラム

場所：ウエルネス交流プラザ「ムジカホール」

平成27年10月24日（土）

参加費無料

健康フェスタ　平成27年11月14日（土）

参加費無料

「第1回　都城地区　地域連携の会」開催

7月31日（金）都城市総合文化ホール会議室にて「第1回都城地区地域連携の会」を開催いたしました。この地域連携の会は、当院の井口院長の発案で地域の医療機関や施設の連携担当者と、顔の見える連携を活性化させ国の今後の施策を意識し、地域連携を一緒に考えていく交流会を兼ねた会として発足いたしました。

会の発足には世話人として都城医療センター地域連携部スタッフ、都城市郡医師会病院より地域連携室の白谷師長様、藤元総合病院より荒武副看護部長様を選出させて頂きました。今回は153の医療機関に案内し、21の医療機関より62名の参加がありました。後藤康高統括診療部長のあいさつの後「地域包括ケアシステムと医療連携～2025年の医療事情　都城の場合～」のテーマで当院の井口院長により講演がありました。決して他人ごとではない、都城市にも2025年問題が迫っており、地域包括ケアシステムの構築も求められていると実感する内容で地域連携の重要性を再認識しました。また、藤元上町病院、城南病院の3つの医療機関からの「自施設の役割と紹介」の発表では、急性期病院や他施設の連携医療機関としての機能や特殊性、役割について詳しく知ることができました。また、患者サービスについての具体的な取り組みも聞かれ参考になり、参加者からも次回も他医療機関の紹介を企画してほしいとの要望が多くありました。

今回は初回ということもあり、交流会を目的とした内容の企画には至りませんでした。今後は世話人の方々を中心に地域包括ケアシステム構築を意識し、都城地区の地域連携の課題について検討できる内容を企画をいていき「都城地区地域連携の会」を活性化していきたいと思います。

（地域医療連携室係長　鳥丸 章子）

看護学校オープンキャンパス

看護学校では、7月、8月にオープンキャンパスが開催されました。今年度も男子学生、女子学生、社会人、ご家族の方など多くの方に来校いただきました。2回目の8月31日は学校紹介の後、沐浴と静脈血採血の学習体験、高齢者体験に順々に参加していただきました。私は誘導係を担当しましたが、始めは緊張気味であった参加者も、在校生や他校の学生との交流の中で徐々に笑顔も増え、積極的に体験されている姿が見られました。楽しく看護技術を体験することができたのではないかと思います。また寄宿舎案内や在校生との懇話会もありました。寄宿舎案内では部屋の見学や寮生との会話を通して、寮生活の様子や雰囲気を感じとることができたのではないでしょうか。懇話会では試験の内容や学校の雰囲気などの質問が多くありました。在校生も参加者もリラックスしている様子で、会話が途切れることなく時間を過ごしたように思います。

ご多忙の中ご参加いただき、ありがとうございました。

（看護学校2年生　竹迫 未希）

連携医療機関のご紹介

医療法人社団　静雄会

藤元上町病院

院長
藤元 静二郎（ふじもと せいじろう） 先生

リハビリテーション専門医
原田（はらだ） 雄大（かつひろ） 先生

所在地	〒885-0072　宮崎県都城市上町10街区24号
TEL・FAX	TEL 0986－23－4000　FAX 0986－23－2549
診療科目	内科、糖尿病・代謝内科、リハビリテーション科、放射線科 (曜日指定)呼吸器内科、内分泌内科、循環器内科、神経内科
病床数	地域包括ケア病棟41床 療養81床(在宅復帰機能強化型41床・回復期40床)
診療時間	平日9:00～12:30、14:00～17:30 土曜9:00～12:30
休診日	日曜・祝日
備考	日本医療機能評価機構認定病院 日本リハビリテーション医学会研修施設 ISO9001認証取得病院

先代の父が、昭和17年に都城市上町に開院し、平成元年にこの地を私が引き継ぎました。

当院も、時代とともに診療の内容が変わっており、以前は高圧酸素療法・脳梗塞治療など急性期治療を主に対応しておりましたが、なかなか患者さんが良くなる現状は少なかったですが、リハビリを始めてからは、劇的に効果が上がっているのが目に見えており、やはり、医療従事者としては『患者さんが良くなるのが嬉しい』ので、現在はリハビリを中心に運営しております。また、今後の医療制度にしても、急性期しか一般病棟が生き残らない状況ですし、地域包括ケアシステムを意識した運営においても、リハビリが主になっております。あと、リハビリ以外では、糖尿病の専門医が常駐しており、糖尿病の患者さんが多いのも特徴です。

皆様にリハビリテーション専門医、原田先生を紹介いたします。

原田医師を含め、リハビリは専門医が一名、認定医が一名の医師と、PT・OT・STの他医療スタッフで充実した診療しており、年中無休、正月・休日もリハビリをする体制を整えております、患者さんは高齢者が多いのですが、最近は若い方々も増えており、脳梗塞、脳出血、大腿骨頸部骨折、腰痛圧迫骨折の方など幅広く対応しています。当院では回復期病棟・在宅復帰強化型療養病棟・地域包括ケア病棟

に入って頂き、もとの施設や在宅に帰って頂くよう診療をすすめており、特に在宅訪問させて頂き、在宅の環境を確認したうえで在宅移行・復帰の力になれるよう、また、患者さんのパートナーとしての治療を心がけています。

最後に貴院との地域医療連携に関しては、外科後藤先生、内科の前田先生に大変お世話になって、丁寧なお返事も頂いており満足しております。わたくしは貴院を地域医療の専門病院と認識し、患者の紹介をさせて頂いています。当院は患者さんの社会復帰・在宅復帰を目指した、リハビリ対応の回復・療養医療機関として地域医療に貢献して行く所存であり、貴院と連携を図り対応していきたいと思いますので、今後ともよろしくお願いいたします。

第6回 市民フォーラム
場所：ウエルネス交流プラザ「ムジカホール」
平成27年10月24日（土）
参加費無料

健康フェスタ　平成27年11月14日（土）

外来診療科別週間担当医当番表　独立行政法人 国立病院機構 都城医療センター

【全診療科　初診予約制】受付時間 8:30 ～ 11:00　【平成 27 年 10 月 1 日】

診療科名等			月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
内科 ※2	初診	血液		前田宏一	休診		
		肝	加藤順也				
	再診		前田宏一	加藤順也	前田宏一 加藤順也	前田宏一 加藤順也 日高智徳	前田宏一 加藤順也
循環器内科			阿南隆一郎	阿南隆一郎	阿南隆一郎		阿南隆一郎
呼吸器内科			後藤康高	後藤康高	後藤康高	後藤康高	後藤康高
呼吸器外科	初診		手術日	巻幡聡	手術日	巻幡聡	手術日
	再診			巻幡聡 加藤文章		巻幡聡 加藤文章	
小児科（午後は完全予約制）	午前	1診	樫木仁	樫木仁	平島要	入江慎二	入江慎二
	午後	1診	樫木仁	横山晃子（乳児健診）	入江慎二	横山晃子	平島要
		2診	平島要	入江慎二	樫木仁	樫木仁	樫木仁
外科	初診		後藤又朗	手術日	後藤又朗	手術日	長井洋平
	再診		後藤又朗 藏元一崇		後藤又朗 問端輔		後藤又朗 長井洋平
消化器病センター			駒田直人	駒田直人	駒田直人	駒田直人	駒田直人
						橋本神奈（午後より）	
乳腺科			後藤又朗		後藤又朗		
整形外科	初診			吉川教恵	手術日	吉川教恵 上通一師	
	再診		税所幸一郎 上通一師				吉川教恵
リウマチ科			税所幸一郎	税所幸一郎（再診のみ）		休診	税所幸一郎（再診のみ）
泌尿器科		1診	手術日	山崎丈嗣	山崎丈嗣	慶田喜文	山崎丈嗣
		2診		井口厚司	慶田喜文	黒島和樹	慶田喜文
皮膚科 ※3				中山文子（午前）		中山文子（午前）	中山文子（午前）
産婦人科		初診	徳永修一	卜部浩俊	徳永修一	永井義雄	卜部浩俊
		再診	永井義雄	終日：徳永修一 午後：卜部浩俊	永井義雄	卜部浩俊	徳永修一
耳鼻咽喉科		一般	外山勝浩 宮永宜明	外山勝浩 宮永宜明	外山勝浩 宮永宜明	外山勝浩 宮永宜明	手術日
		難聴外来	池ノ上あゆみ（14:00～17:00）				
放射線科		初診再診	日野祐一	新村耕平	日野祐一	新村耕平	日野祐一
		放射線治療	新村耕平	日野祐一	新村耕平	日野祐一	新村耕平
歯科口腔外科		一般	田畑雅士 新屋俊明 西久保舞	田畑雅士 新屋俊明 西久保舞 有村真一郎	田畑雅士 新屋俊明 西久保舞	田畑雅士 新屋俊明 西久保舞	手術日
		ペインクリニック					横山幸三（午後）
		障がい者歯科					森主宜延（月1回）
がんサポート外来 ※4			新村耕平	新村耕平	新村耕平	新村耕平	新村耕平
緩和ケア外来 ※4							林章敏（第四金曜日）
特殊外来			マザークラス（第二・四月曜日）	フットケア外来	助産師相談室（午後）	母乳外来	ストーマ外来（午後）
				リンパ浮腫外来		リンパ浮腫外来	

［その他の特殊診療］

診療科名等	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
内視鏡センター	上部消化管	気管支	上部消化管 下部消化管	上部消化管 下部消化管（午後より宮大） 気管支	上部消化管 下部消化管
透視撮影（胃）	外科		外科		
骨塩ドック（骨粗鬆症検査）【予約制（14:00以降）】		整形外科		整形外科	

※1　全診療科初診予約制となりますので、事前に診療FAX連絡票にてご連絡頂きますようお願いします。また各診療科の診察日以外については、急患のみ対応となります。
※2　医療機関の方へ：血液内科の初診については、事前に診療FAX連絡票と共に、最新の血液データを送ってください。
※3　皮膚科の診察時間は、火曜、木曜、金曜の9時～ 12時30分となっております。
※4　がんサポート外来、緩和ケア外来については、事前にがん相談支援センターまでご連絡頂きますようお願いします。
※5　セカンドオピニオンの受診についても、予約制となっております。がん相談支援センターまでご連絡頂きますようお願いします。

〒885-0014 都城市祝吉町5033番地1　TEL（0986）23-4111　FAX【地域医療連携室】（0986）26-1893　FAX【代表】（0986）24-3864

独立行政法人 国立病院機構
都城医療センター（地域がん診療連携拠点病院・地域周産期母子医療センター）
〒885-0014　宮崎県都城市祝吉町5033番地1
TEL/0986-23-4111（代表）　FAX/0986-24-3864
E-mail/syomu-2@.hosp.go.jp　http://www.nho-miyakon.jp

編集発行：広報委員会

参加費無料